

2. 「長野県わくわく実習」メニューご案内

・薬局内実習

1. 待合室から見てみよう (1W・6W)

白衣を脱ぎ、患者・顧客の一員として待合室に一定時間すわる。

[ねらい]

薬局の設備や、掲示物、働く薬剤師の姿は待合室からはどのように映るかを確認する。患者の目線で薬局を眺めることにより、新たな気づきを得ることができる。

<ポイント>

実習初期と中間に行い、感じ方を比較する。

P101 薬局アイテムの果たす役割

P201 薬剤師の心構え

P401 かかりつけ薬局・薬剤師の役割・・・などを感じ、自覚を新たにできます。

2. 服薬体験実習 (1W~5W)

偽薬やビタミン剤などを選択し、1週目から5週目まで自分で決めた用法に従って毎日服薬する。コンプライアンスの状況を記録に取る。基本は「錠剤+散剤・2用法」前半内服薬、後半吸入薬といった組み合わせでもよい。

[ねらい]

自分で服薬を続けることにより、コンプライアンスを守る難しさ、ノンコンプライアンスの原因等を体感する。調剤業務・服薬指導に生かす。

<ポイント>

中間プレゼンで発表
学生の同意が必須

服薬体験によりコンプライアンスを守る難しさを感じ、服薬指導につなげましょう！



P322 服薬指導実践

「患者に共感的態度で接する」
「服薬上の問題点を感じる」

P208 情報提供

「吸入器の使用方法を理解する」

P319 服薬指導実践

「取り扱い方を患者にわかりやすく説明できる」

・・・等の実習充実に繋がります。

日付	朝	夜
7/7	開始	○
8	○	○
9	○	○
10	○	○
11	×	○
12	○	○
13	○	○
14	○	○
15		

すでに薬を内服している実習生は、前半は服薬・後半は吸入体験 など。

3. 患者アンケート (1W~5W)

待合室に待っている患者にアンケートを行う。(アンケート見本 **資料9**)

[ねらい]

アンケートを通じて患者が薬剤師に求めているものを感じる。患者とのコミュニケーション能力の向上をはかり、服薬指導につなげる。

<ポイント>

できるだけ多数の患者さんと触れ合い実施する。
中間プレゼンで発表。
実習早期より開始することが重要！！



P401~403 患者・顧客との接遇

P304 処方せんの受付

P322 服薬指導実践

P406 カウンター顧客対応実習

P602 総合実習

「薬剤師とはどうあるべきか」

「求められる薬剤師」・・・という事を感じることができます。

なるべく多くの患者さんと話をして、会話に慣れましょう。

・・・などの導入、スキルアップを図れます。

4. 研究課題 (1W~11W)

実習初期に課題・テーマを決めて、実習期間に実際の患者・処方内容を通して調査・研究を行う。テーマは薬局の実情に合わせて、なるべく実際の患者に関わる内容とする。

[ねらい]

課題を持つことで、疾病・処方内容・相談内容を通じ、患者・顧客に興味を持って実習を進める。

<ポイント>

最終プレゼンで発表。

【学生プレゼン資料例】



なるべく、実際の患者さんや処方から考察・感じた事を多く盛り込み、体験型の発表に！

P202~204 情報の入手と加工

P208 情報提供

P316 患者情報の把握

P402 疾病予防・健康管理アドバイス・・・などの実習に活用することで、

P322 服薬指導実践

P406~407 カウンター実習・・・などへスキルアップでき、

P601~602 総合実習

まで実習をつなげることができます。

5 . インシデント事例集 (1W~10W)

実習初期より自分の行ったミスの事例を収集・分析する。

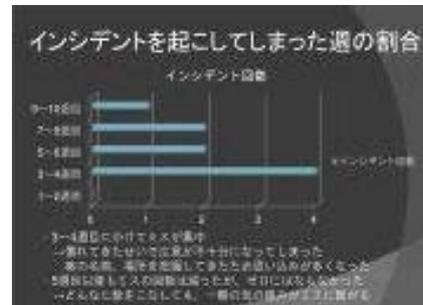
(インシデントレポート見本 **資料10**)

[ねらい]

調剤過誤対策・意識の重要性を感じる。
実習の進捗によるミスの変化を考える。

<ポイント>

最終プレゼンで分析結果・対策を発表



P329~332 安全対策

「過誤が起こりやすいポイントと、その対策を考える」・・・等の実習充実につながります。

6 . ディスプレイ・ポップ作成 (5Wくらい)

OTC、健康食品、サプリ、季節商品、日用品などのディスプレイ・ポップ・チラシ・リーフレットなどを作成し、店内に掲示する。

[ねらい]

作成のために様々な情報を調べることにより、
カウンター実習での顧客対応につなげる。

<ポイント>

患者アンケートの際に患者に評価を得ることも有効
様々な商品を調査・比較して作成することが大切
品揃えの少なくとも取扱商品の中で行う



自分でディスプレイ・ポップ作成した物は自信を持って説明・販売出来ます！

P202 情報の入手と加工

P402 疾病予防・健康管理アドバイス

P404 セルフメディケーション

P510-515 地域対応実習・・・等の実習充実につながり、

P406~407 カウンター実習 にステップアップする足掛かりとする。

・薬局外実習

7. 様々な薬局を見てみよう

地域・エリア内の協力薬局を見学する。

[ねらい]

見学することにより、薬局毎の特徴・違いを感じる。

<ポイント>

複数の薬局を見ることが望ましい

漢方・薬局製剤・OTC・小児科・

皮膚科・在宅・学校薬剤師なども考慮する。

P102・103 漢方製剤・薬局製剤 **P501 在宅**

P508 学校薬剤師・・・等の実習充実につながります。



8. 外部施設見学・実習

地域・エリア等で協力して、外部の施設を見学する。(依頼先施設例 **資料8**)
(卸・製薬会社・介護施設・検査センター・保健福祉事務所など)

[ねらい]

薬剤師の職域・職能の広さを体感する

<ポイント>

事前に依頼をきちんと行うことが必要

(依頼書ひな形 **資料6-1・2**)

集合・送迎などの情報共有が必須

移動に要する交通費は実習施設が負担する

(実習費に含まれる)

終了後は、御礼も忘れずに(御礼状ひな形 **資料7**)

P505 医療福祉活動 **P507 緊急災害時の役割**

P509 医薬品の適正使用・・・等の実習充実につながり、視野が広がります。



9. 地区勉強会・生涯教育講座への参加

地域・エリアで開催している勉強会に参加する。

[ねらい]

最新の医学知見や新薬情報を学ぶとともに、
生涯学習の必要性を知る。

<ポイント>

実習時間外の場合は翌日の開始時刻等を
考慮することが望ましい。

P202、208～210 情報の収集と提供・・・等の実習充実につながります。



・総合実習

10. OTC・健康食品などのカウンター実習 (1W~11W)

自薬局および協力薬局で、薬局アイテムの分類やロールプレイなどを重ねることで、顧客に対するトリアージと適切な医薬品及び健康食品などの選択供給ができる。

[ねらい]

薬局アイテムを分類し、症例に基づいたトリアージのロールプレイ等を行うことで、顧客対応が実践できるようにする。

受け入れ薬局にセルフメディケーションに対応するアイテムが少ない場合、カウンター実習のチャンスが少なくなる可能性を補うために協力薬局と連携し、受け入れ薬局と双方で連動して進めていくことが大切。

<ポイント>

成分と効果の理解を早めるために長野県薬剤師会薬局経営委員会作成の「一般用医薬品販売における疾患別推奨マニュアル」等を活用し、「(3) 薬局調剤を実践する」のユニットと関連付けて行なう。

症例ごとに問診をもとにしたチャートを作成し、ロールプレイに活用する。

また、協力薬局は、実習後は受け入れ薬局にフィードバック用レポートを送付し、受け入れ薬局でのカウンター実習が段階的にステップアップできるようにするとともに受け入れ薬局も協力薬局に実習状況および進行度を報告し、情報の共有を図る。

実習早期より開始し、段階的にスキルアップすることが重要！



P104 薬局アイテムの管理と保存・・・陳列、管理方法、分類について学ぶ。

P208~210 情報の提供・・・問診によるトリアージを行うことで、使える知識が身に着く。(6. ディスプレイ・ポップの作成と連動させるとより実習が楽しくなる！)

P322 服薬指導実践・・・同一成分の医療用医薬品と比較し、さらにトリアージを学ぶことで服薬指導もさらにスキルアップできる。

P401~407 カウンター実習・・・顧客対応、トリアージ、受診勧奨を体験できる。

P601~602 総合実習・・・セルフメディケーションの意義・重要性を感じる。

「かかりつけ薬剤師とはどうあるべきか?」「地域での薬剤師の役割」・・・を考える。

参考資料：長野県薬剤師会薬局経営委員会作成一般用医薬品販売における疾患別推奨マニュアル
日本薬剤師会作成一般用医薬品販売実務パッケージ

11. 在宅医療実習 (1W~11W)

施設見学などを通じて、在宅医療に関わる他の職種の業務を見学・体験する。
また、実際に薬剤師の在宅訪問に同行して患者さんに接する

[ねらい]

在宅医療に関わる他の職種の業務を体感し、多職種連携の必要性を感じる。
実際に在宅医療に同行することで、その意義や患者さんとの関わりを学ぶ。

<実習の例>

- ・介護施設や訪問看護ステーション、包括支援センターを見学・体験する
- ・実際に患者さんのお宅を訪問し、服薬指導、服薬支援を体験する
- ・血圧計・聴診器・パルスオキシメーター等の使い方を知り、実際に簡単なバイタルチェックを行う
- ・看護師、ヘルパーと同行し、その業務を見学・体験することから、薬剤師の役割を考える
- ・Dr やケアマネージャーとの連携を、報告書等を実際に記入し体験する
- ・担当者会議に同席し、薬剤師の役割や他の業種との関わりを感じる

受け入れ薬局で在宅を行っていない場合は地域・エリアで連携し何度か訪問することより充実した内容になります！！



P501~502 在宅医療・・・薬剤師が関わる意義を感じることができます。

P505 地域医療・・・他業種と薬剤師の関わり・役割を感じることができます。

P209~210 情報の提供・・・情報の授受と共有の重要性を感じることができます。

「在宅の現場で薬剤師は何が出来るのか」・・・という事を具体的に感じることができます。

参考資料：

長野県薬剤師会作成 「高齢者・在宅患者の服薬支援ガイドブック」

・ 合同実習・アンケート

12. アンケート（事前・中間・終了時）

事前・中間・終了時に学生にアンケートに記入してもらう。
（アンケートひな形 **資料3**）

[ねらい]

アンケートを通じて、学生の実習に対する要望や薬剤師・薬局のイメージを知り、実習に活かしたり、スケジュールの見直しを行う。

13. プレゼンテーション（中間・最終）

地域・エリア単位で会員を対象に発表を行う。

中間 「服薬体験実習」「患者アンケート」「協力薬局・外部見学」「前半の感想」

最終 「インシデント事例集」「研究課題」「協力薬局・外部見学」「実習を終えて」
など

[ねらい]

発表の形にまとめることにより、まとめ・
振り返り・気づきの機会となる。
人前での発表を体験できる

<ポイント>

最終プレゼンはなるべく多くの会員に
聞いてもらえる機会を選ぶ。



実習生・指導薬剤師共に目標を設定しやすくなり、程良い緊張感も得られます。

14. スモールグループディスカッション（中間・最終 SGD ほか）

地域・エリア単位で実習生同士や指導薬剤師とテーマに基づき討議する。

[ねらい]

討議を通じて、実習生同士の想い、
指導薬剤師の想いを感じる。
エリアでの学生の交流がはかれる。

「討議をするテーマにより様々な実習項目と
リンクさせる事が可能です」

P210 情報の授受と共有の重要性

P328・332 安全対策

P401 かかりつけ薬局・薬剤師の役割

P502 在宅医療への関わり

P503 薬薬連携

P602 薬剤師としての貢献



実習生同士の交流は大切です！
実習生と薬剤師の視点の違いも感じられます！

・・・など様々なテーマが視野を広げ、意識を高めます。